



『子育て四訓』

今年もあと一ヶ月と思うと本当に早いものです。

振り返ると今年もたくさんのニュースが駆け巡りました。子どもたちも学校行事を楽しみに、自分と戦いながら1つ1つの課題をクリアしています。一人一人の成長を振り返ってみると確実に成長していることを見つけることができます。

いろんな場面でよく目にする『子育て四訓』です。改めて素晴らしい教えだと感じます。

『子育て四訓』

- 一. 乳児はしっかり肌を離すな
- 二. 幼児は肌を離せ、手を離すな
- 三. 少年は手を離せ、目を離すな
- 四. 青年は目を離せ、心を離すな

(一) 乳児期は愛着を育てる時期です。絶対的安心感を獲得することで、その後の人間関係が上手くいくといわれています。『一心同体』の関係です。

(二) 幼児期は冒険させる時期です。少し怖いけど、振り返るとそこに自分を見ている人がいると思えることで、外の世界や他人との関わりに踏み出せるようになります。『親は安全基地』です。

(三) 少年期は自律や勤勉さを身につける時期です。宿題をする、相手との約束を守る、相手に親切にするなど人間関係の基本を身につけていきます。子の将来を思えば故ですが、何もかも思い通りにさせようとすることで親子の溝が出来てきます。『子離れの準備』をしましょう。子育てに悩んだときは割り切った考え方3つがお勧めです。①どうしても譲れないことをいくつか決めましょう。その都度しっかり注意していきます。コツは深追いしないで反応を求めず何度でも注意します。②それ以外は子どもの態度にムキにならず無視します。すべてを叱っているのは子どもも親もエネルギーがなくなります。親子関係がこじれ逆効果です。③小さなことを見つけて褒めましょう。『子育て四訓』の三の「目を離すな」とは、「お母さん怒っているから」と無言の圧力で無視するのでなく、自然体で普通の態度でこどもの変化を見守るということです。そうすることで小さな褒めるべきことが見つかります。子どもは必ずよい方向に変わります。なぜなら本当は親に一番認めてもらいたいし「いい子だね」って言って欲しいからです。

(四) 青年期は自分とは何者か？友達との違いに苦しんだりしながら将来の自分を見つけていきます。親の介入は成長を遅らせます。『子離れがテーマ』になります。親は子どもを信じ、親とは違う人格だということを認める時期です。深入りしないで気づかいを送り続けましょう。求められたときには相談に乗るという距離感で大丈夫です。

先を見据えた子育ては将来のよい親子関係を作ります。的を絞って将来の布石を打つことで思い通りの子どもに育っていきます。遅いことはありません。割り切った子育ての実践をやってみませんか？

(文：時川ちづる)

スクールカウンセラー来校予定日【8：15～12：15】【13：00～17：00】

相談予約（1時間無料です）は、学校へお電話を。

【月曜終日】 12月6日、1月31日、2月21日（今年度最後）

